

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年7月27日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
7月29日（金） 12:30~17:55	日本学会議講堂（ハイブリッド開催）	学術フォーラム 「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」
7月29日（金） 14:00~16:50	オンライン開催	公開シンポジウム 「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」
7月30日（土） 13:00~15:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナ感染症対策に求められる老年学の役割と発揮」
7月30日（土） 13:00~17:10	早稲田大学西早稲田キャンパス63号館2階 01・02 教室（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「みんなで考えるカーボンニュートラルと化学」
8月5日（金） 15:00~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム（オンラインシンポジウムシリーズ） 「地球の未来を切り拓く—育種学の役割—（第2回）」
8月10日（水） 13:30~17:00	日本学会議大会議室（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「越境しあうインフラガバナンス —性能とサービスをつなぐ—」
8月16日（火） 13:30~17:40	オンライン開催	公開シンポジウム 「地球環境の未来を考える～カーボンニュートラルの実現に向けて～」
8月18日（木） 13:00~16:35	オンライン開催	公開シンポジウム 「微生物や微生物菌叢への革新的機能付与・機能制御の新展開」
8月27日（土） 13:00~17:00	日本学会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「神経科学領域の倫理的課題」
9月2日（金） 13:00~16:40	オンライン開催	学術フォーラム 「コロナ禍を共に生きる#8 コロナパンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？」

9月3日（土） 13：00～16：05	オンライン開催	公開シンポジウム 「法獣医学の世界」
9月5日（月） 14：00～17：00	那須ハイランド パーク イベント ト館	公開シンポジウム 「那須地域から考える 20 年後の日本社会－共 領域におけるイノベーション創出と地方創生 －」
9月8日（木） 13：00～16：30	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	学術フォーラム 「性差研究に基づく科学技術・イノベーショ ン」

※新型コロナウイルス感染症の等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



日時 令和4年7月29日(金) 12時30分～17時55分

お申し込みはコチラから

開催場所 日本学術会議講堂(申込先着順)

オンライン配信あり



後援: 内閣府、文部科学省、日本経済団体連合会、国立研究開発法人 科学技術振興機構 <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

プログラム

12:30～13:00

挨拶

- ・梶田 隆章
(日本学術会議会長・東京大学宇宙線研究所教授) 趣旨説明
- ・小林 鷹之
(内閣府特命担当大臣(科学技術政策))
- ・篠原 弘道
(日本経済団体連合会副会長・NTT相談役)
- ・池田 貴城
(文部科学省研究振興局長)
- ・塩崎 正晴
(国立研究開発法人科学技術振興機構理事)
- ・小谷 元子
(日本学術会議連携会員・ISC次期会長)

13:00～14:40

セッション1「基礎科学と私たちの暮らし」

- ・田中 啓二
(日本学術会議連携会員・公益財団法人東京都医学総合研究所理事長)
「基礎研究余話:「役に立たない研究」と「役に立つ研究」」「人工知能が拓くインクルーシブ社会」
- ・藤田 誠
(東京大学大学院工学系研究科卓越教授)
「持続的社會と科学リテラシー」
- ・長我部 信行
(日立製作所コネクティブインダストリーズ事業統括本部)
「基礎科学とイノベーション」
- ・長井 志江
(東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構特任教授)
- ・一ノ瀬 正樹
(日本学術会議連携会員・東京大学名誉教授・武蔵野大学教授)
「科学技術をめぐる事実と規範—推進と抑制のゆらぎ—」

14:50～15:30

総合討論I「発展する社会と基礎科学」

モデレーター: 滝 順一
(日本経済新聞編集局総合解説センター編集委員)

パネリスト: 第一セッション講演者
青木 玲子
(日本学術会議連携会員・公正取引委員会委員)

コメンテーター: 渋谷 健
(シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役)
「基礎科学と新しい資本主義」

15:45～17:00

セッション2「科学と市民の共創」

- ・駒井 章治
(東京国際工科専門職大学工科学部教授)
「自省と対話 -- 相互理解のために --」
- ・北島 薫
(日本学術会議第二部会員・京都大学農学研究科教授)
「生物多様性と人: 里山、奥山、そして地球」
- ・原 有穂
(Friday for future Japan)
「COP26で気付いた気候危機の根本的な問題点」
- ・小林 佳世子
(南山大学経済学部准教授)
「共感からみたヒトという生き物の謎と社会の仕組み」

17:10～17:55

総合討論II「科学を私たちの力に」

モデレーター: 高橋 真理子
(ジャーナリスト・元朝日新聞科学コーディネーター)

パネリスト: 第二セッション講演者、小谷 元子、梶田 隆章

閉会挨拶: 野尻 美保子
(日本学術会議第三部会員・「持続的発展のための国際基礎科学年」連絡会議世話人)

公開シンポジウム

「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」

日時 2022年7月29日（金） 14:00-16:50

開催方法 オンライン開催

主催 日本学術会議政治学委員会国際政治分科会

共催 科学研究費補助金（基盤研究（A）「国際社会における保護・禁止等の範囲をめぐる学際的研究」）

開催趣旨

本シンポジウムは、2022年2月24日のロシアによる侵攻で始まったウクライナ戦争について、なぜ対立が武力紛争化したのか、そしてこれから地球規模の共存の枠組みを再構築できるのかを、国際政治学、国際法、地域研究の観点から議論することを目的とする。

欧州における欧州安全保障協力機構（OSCE）は、特定の国家を排除せず、すべての国家を包摂し、互いに協力することで全体の安全を達成しようとする《共通の安全保障》の理念を体現するものであった。その下で、国内における《多数者による統治》と《少数者の権利》の両立を確認し、少数者の権利保障を理由とする武力による一方的な国境線変更の余地を狭めて各国の領土保全を確かにすることを目指した。今回のロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、この共存の枠組みを大きく揺るがすものであった。本シンポジウムでは、（1）プーチン政権による武力行使の法的根拠、（2）旧ソ連圏における分離紛争の多様性、（3）共通安全保障と集団防衛との関係、及び（4）今回の戦争の「限定性」といった問題を設定して、ウクライナ戦争を学際的に議論し、今後の展望を示したい。

式次第

14:00-14:05

開会あいさつ

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）

14:05-14:10

趣旨説明

大芝 亮（日本学術会議連携会員、広島市立大学広島平和研究所長）

14:10-14:30

報告「武力行使の法的根拠の評価」

森 肇志（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

14:30-14:50

報告「旧ソ連圏の分離紛争の比較——非武装地帯の維持と和平交渉のフォーマット」

松里 公孝（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

14:50-15:10

報告「OSCE 安全保障体制と移行期正義」

吉川 元（広島市立大学広島平和研究所特任教授）

15:10-15:30

報告「残虐な限定戦争」

石田 淳（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

15:30-15:40

休憩

15:40-16:00

指定討論

久保 慶一（早稲田大学政治経済学術院教授）

羽場久美子（日本学術会議連携会員、青山学院大学名誉教授）

16:00-16:45

総合討論・質疑応答

16:45-16:50

総括・閉会挨拶

大芝 亮（日本学術会議連携会員、広島市立大学広島平和研究所長）

総合司会

酒井 啓子（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院社会科学研究院教授）

問い合わせ先

石田 淳（ishida@waka.c.u-tokyo.ac.jp）

申し込みフォーム

<https://docs.google.com/forms/d/1D0U9CoBVbLoh1rdu7GSOFiFDJIc8cvLv0hnhWyJnGY/edit>



参加無料（先着 500 名）



公開シンポジウム

主催

日本学術会議
健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会
臨床医学委員会 老化分科会

高齢者の健康・生活の視点から 新型コロナウイルス感染症対策に求められる 老年学の役割と発揮



日時：令和4年(2022年)7月30日(土)13:00~15:30
場所：オンラインZoom開催(定員800名)とYouTube配信
無料&どなたでもご参加いただけます。



次第

総司会 田高 悦子(北海道大学大学院保健科学研究院教授※)
委員長挨拶 住居 広士(県立広島大学大学院教授※)
座長 荒井 秀典(国立長寿医療研究センター理事長※)
安村 誠司(福島県立医科大学 理事兼副学長※)

シンポジスト

- 1)「臨床医学系学術の役割と発揮 —コロナフレイル及び諸課題の再考—」
飯島 勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構教授※)
 - 2)「健康・生活科学系学術の役割と発揮 —生活機能低下リスクとその予防—」
玉腰 暁子(北海道大学大学院医学研究院教授※)
 - 3)「社会福祉学系学術の役割と発揮—これからの高齢者健康福祉政策の方向と対応システム—」
野口 定久(佐久大学人間福祉学部長※)
 - 4)「建築工学系学術の役割と発揮—フレイル・感染症予防から見た住宅の課題と対策—」
伊香賀 俊治(慶應義塾大学システムデザイン工学科教授※)
講師・コメンテーター 鷲見 学(厚生労働省医政局地域医療計画課長)
- 閉会挨拶 須田木綿子(東洋大学社会学部教授※)
日本学術会議会員高齢者の健康分科会委員(会員※・連携会員※)

お申込方法

1. お申込はオンラインフォームからお願いします。(2022年7月20日締め切り)
右のQRコードからもアクセスできます。

<https://forms.gle/obQCXwVQHwxUqTjk8>



2. お申込み後、後日、オンライン会議のURLをメールにてお送りします。
メールが届かない場合、お問合せ先 jp.carework@gmail.com までお問合せください。

後援：一般社団法人日本老年医学会、日本老年社会学会、一般社団法人日本老年看護学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本介護福祉学会(以上、予定)

日本学術会議シンポジウム 「みんなで考えるカーボンニュートラルと化学」



2020年10月に日本政府によって2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルが宣言され、その実現に向けた取り組みが加速しています。化学製品は生活でも産業でも不可欠となっていますが、一方でその製造を担う化学産業は温室効果ガスを多く排出しています。カーボンニュートラルを達成し地球温暖化を防止するためには、温室効果ガスを排出せずに炭素等の物質を循環する産業と社会システムの実現が不可欠です。

カーボンニュートラル達成に向けた化学技術の責務と挑戦を産学の化学の専門家が講演し、続けて地球温暖化防止の実現に向けた多様な立場の人々の役割についてリスク管理の専門家が講演します。また、全員参加型のグループ討議も実施、次世代を担う若者をはじめ多様な立場の皆様と、2050年にありたい社会の姿とその実現に向けた我々の役割を多面的に議論し、一緒に考えます。

主催：日本学術会議 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分科会/環境学委員会 環境科学分科会

共催：公益社団法人化学工学会、早稲田大学理工学術院総合研究所

後援(予定)：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、公益社団法人石油学会、一般社団法人触媒学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、一般社団法人環境資源工学会、日本LCA学会、NPOエコデザイン推進機構、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会、一般社団法人コンビナート連携推進機構

日時： 2022年7月30日(土)13:00~17:10

形式： 現地会場とオンラインのハイブリッド形式

現地会場： 早稲田大学・西早稲田キャンパス 63号館2階01・02教室(定員300名)

オンライン会場： Zoom(定員500名)

参加費無料・要参加登録(先着順、下のURLもしくは右のQRコードよりお願いします)

<https://forms.gle/PDRxpUSZJuBCUWeg6>



13:00~14:20 第一部・講演

開会挨拶

所 千晴(日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院/東京大学大学院工学系研究科教授)

講演「物質閉鎖系である地球における適材適所の化学技術」

関根 泰(日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

講演「カーボンニュートラル社会の実現に向けた炭素・水素循環技術の開発」

鈴木賢(旭化成株式会社 上席理事 / 研究・開発本部 化学・プロセス研究所 所長)

講演「カーボンニュートラルを実現し、地球温暖化を防ぐために何が必要か？

～社会を構成する行政、企業、市民の役割を考える～

野口 和彦(日本学術会議連携会員、横浜国立大学IASリスク共生社会創造センター客員教授)

14:30~15:30 第二部・全員参加型の議論

グループ討議

15:40~17:00 第三部・総合討論

(司会) 野田 優(日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

(コメンテーター) 辻 佳子(日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授)

関根 泰、鈴木 賢、野口 和彦

各グループからの討議結果の発表

登壇者からのコメント、質疑

閉会挨拶

北川 尚美(日本学術会議第三部会員、東北大学大学院教授)

公開シンポジウム 「地球の未来を切り拓く—育種学の役割—」

日時

第2回 2022年8月5日(金) 15:00~17:00

会場

オンライン開催

会費

無料

対象

育種学や農学に関心のある方
(産官学関係者、大学院生、
大学生、高校生、一般)

15:00
開会の挨拶及び
趣旨の説明

中園 幹生 (一般社団法人日本育種学会副会長、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

15:10
第1セッション
講演会

総合司会：磯部 祥子 (公益財団法人かずさDNA研究所先端研究開発部室長)

「民間種苗会社から見た育種学の貢献と今後への期待：アカデミアと産業界の経験から」
福岡 浩之 (タキイ種苗(株) 研究農場副農場長)

16:00
休憩

16:10
第2セッション
パネルディスカッション

総合司会：吉田 薫 (日本学術会議連携会員、
東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)

福岡 浩之 (タキイ種苗(株) 研究農場副農場長)

近藤 友宏 (株) 日本農林社代表取締役社長)

江面 浩 (日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授、
理工情報生命学術院長、サナテックシード技術担当取締役)

磯部 祥子 (かずさDNA研究所先端研究開発部室長)

横井 修司 (大阪公立大学大学院農学研究科教授)

16:50
閉会の挨拶

経塚 淳子 (日本学術会議第二部会員、東北大学生命科学研究科教授)

登録サイト

https://uso6web.zoom.us/webinar/register/WN_79dGWSGLSzCRvTIPjJ2XUg

* 登録完了後、webinar視聴案内のメールが届きます。



主催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
共催：一般社団法人・日本育種学会



越境しあうインフラガバナンス —性能とサービスをつなぐ—

日時：令和4年8月10日(水)
13:30~17:00

形式：ハイブリッド開催

●日本学術会議 2階 大会議室

定員 40名
東京都港区六本木 7-22-35
東京メトロ千代田線 乃木坂駅5番出口徒歩1分

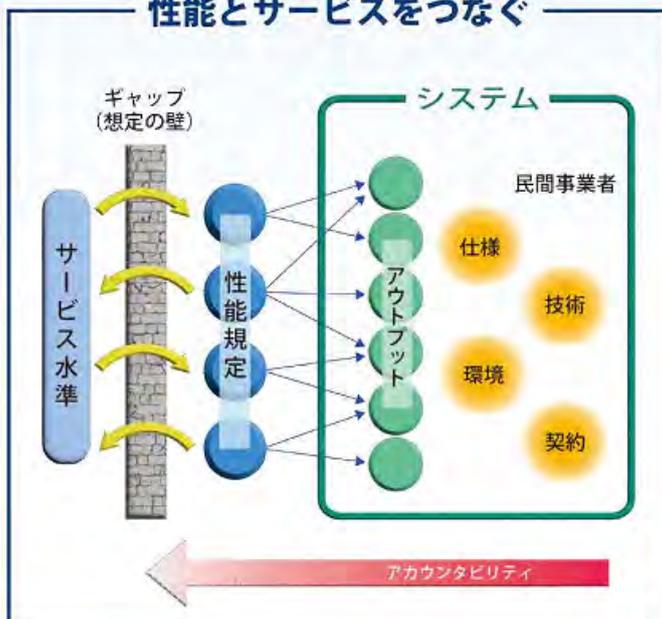
●Zoomウェビナー

定員 500名



主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会
共催：公益社団法人土木学会、一般社団法人日本建築学会

性能とサービスをつなぐ



気候変動により災害発生のメカニズムが変化するとともに、社会からの要請も変化しつつある。一方、インフラは、大規模修繕・更新の時期を迎えている。最新の技術成果を取り入れたスマートなインフラの新設・更新戦略は、インフラシステムの高度化を通じて国土、都市・地域の再生・更新の先導役を果たす。

しかし、インフラの計画論と個別施設の設計論の間には埋め切れないギャップが存在する。インフラシステムに期待されるサービス水準と性能を結びつけるインターフェイスの設計に、大きな想定の間壁がある。この壁をいかに越境するか？インフラは日々の生活を支える基盤であり、現実世界の現場では、答えを出していかなければならない。インフラシステムの高度化戦略には、インフラ性能高度化のための技術開発、アセットマネジメント技術の高度化、インフラ性能の評価・モニタリングとアセスメント技術の実装、インフラDXの推進と制度基盤の発展などが含まれる。本シンポジウムを通じ、サービス水準と性能に着目し、越境しあうインフラガバナンスについて議論したい。

申し込み方法

下のURLもしくは右のQRコードより申し込みください。
<https://forms.gle/NBaG41bWWCb73MFy8>





越境しあうインフラガバナンス —性能とサービスをつなぐ—

プログラム

総合司会 : 小野 潔
(日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

13:30 趣旨説明 : 高橋 良和
(日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授)

13:40 越境しあうインフラガバナンス : 小林 潔司
(日本学術会議第三部会員、
京都大学名誉教授/京都大学経営管理大学院特任教授・客員教授)

14:10 性能保証型インフラアセットマネジメントの方法論 : 玉越 隆史
(国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部道路構造物機能復旧研究官、
京都大学経営管理研究部特命教授)

14:40 変容 (Transformation) 論 : 小池 俊雄
(日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水災害・
リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長、東京大学名誉教授
政策研究大学院大学連携教授)

15:10-15:30 ~ 休憩 ~

15:30 パネルディスカッション 越境しあうインフラとは?

(座長) : 小林 潔司
(日本学術会議第三部会員、
京都大学名誉教授/京都大学経営管理大学院特任教授・客員教授)

(コメンテーター) : 天野 玲子
(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 監事、
国立研究開発法人 防災科学技術研究所 参与)

: 小池 俊雄
(日本学術会議第三部会員、土木研究所水災害・
リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長)

: 佐々木 葉
(日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授)

: 多々納 裕一
(日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所社会防災研究部門教授)

: 那須 清吾
(日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)

16:50 とりまとめと閉会の挨拶 : 竹脇 出
(日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授)

2050年までにカーボンニュートラル(ネットゼロ)の実現が世界各国の共有の目標となっています。カーボンニュートラルの実現には、森林や土地利用といった環境や持続可能な農業政策はもちろん、エネルギー、建築物、交通を含むインフラなどのあらゆる産業において急速で広範囲なかつてない規模の社会の変革・移行が必要となっています。

本シンポジウムでは、地球環境や気候変動とカーボンニュートラルの関連性やその実現に向けた産業構造の変革について先進的研究を講演頂くとともに、カーボンニュートラル実現社会への学術研究の期待や貢献および課題について、学生たちと共に議論します。

令和4年 **8月16日** 火
13:30~17:40

オンライン開催

事前参加申し込み制

参加費無料

地球環境の未来を考える

「カーボンニュートラルの実現に向けて」

13:30~13:40 **開会挨拶**

梶田 隆章 (日本学術会議会長・第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)
吉村 忍 (日本学術会議第三部会員・部長、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授)
寶金 清博 (日本学術会議連携会員、北海道大学総長)

13:40~14:15 **基調講演 「カーボンニュートラルの実現に向けて」**

高村ゆかり (日本学術会議副会長・第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授)

14:15~14:40 **講演 1 「ゼロカーボン北海道:未来をつくること」**

山中 康裕 (北海道大学大学院地球環境科学研究院教授、国連大学認定RCE北海道道央圏副代表)

14:50~15:15 **講演 2 「北海道のバイオマス利活用の意義~事例を踏まえて~」**

石井 一英 (北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点代表、大学院工学研究院教授)

15:15~15:40 **講演 3 「東北の未利用資源の経済的な循環で創り出す未来」**

北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授、ファイトケミカルプロダクツ(株)CTO)

15:40~16:05 **講演 4 「新しい九州経済を創りだす再生可能エネルギー」**

木村誠一郎 ((一社)離島エネルギー研究所代表、(公財)自然エネルギー財団上級研究員、九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所招聘研究員)

16:15~17:35 **総合討論 テーマ「地球環境の未来を考える」**

モデレータ 大場みち子 (日本学術会議第三部会員、公立はこだて未来大学教授)
パネリスト 高村ゆかり、山中 康裕、石井 一英、北川 尚美、木村誠一郎、藤岡沙都子 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、慶応義塾大学准教授)

17:35~17:40 **閉会挨拶**

俣野 茂 (日本学術会議第三部会員・北海道地区会議代表幹事、北海道大学客員教授・名誉教授)



参加申込

参加を希望される方は、8月14日(日)までに下記URL、又は右のQRコードからお申し込み下さい。



URL <https://forms.gle/pf1yg8uwtAWUGkGi8>

お問い合わせ先

日本学術会議北海道地区会議事務局
(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課)
Tel: 011-706-2155・2166 Fax: 011-706-4873
e-mail: suishin*general.hokudai.ac.jp
(上記mailアドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

連続公開シンポジウム

SDGs達成に向けた農芸化学の挑戦

第3回 微生物や微生物菌叢への革新的機能付与・ 機能制御の新展開

2022年 8月18日(木)



参加費無料

事前参加申込制

ウェブ開催 どなたでも参加できます。

<https://forms.gle/1EUuRMvbgDdPRXR2A>

13:00~13:20

開会の辞： 稲垣 賢二
(日本学術会議連携会員，岡山大学特任教授)

来賓挨拶： 松山 旭
(日本農芸化学会会長，キッコーマン株式会社取締役常務執行役員)

趣旨説明： 近藤 昭彦
(日本学術会議連携会員，神戸大学副学長)

13:20~13:45

「腸内環境の制御による新たな疾患予防・治療基盤技術の創出」

福田 真嗣 (慶應義塾大学先端生命科学研究所 特任教授)
座長：近藤 昭彦 (日本学術会議連携会員，神戸大学副学長)

13:45~14:10

「微生物は集団になり社会性を創発する～微生物も群れて会話する～」

野村 暢彦 (筑波大学生命環境系教授)
座長：西山 真 (日本学術会議連携会員，東京大学教授)

14:10~14:35

「細菌でレアメタルを集める！」

岡村 好子 (日本学術会議連携会員，広島大学教授)
座長：古園 さおり (東京大学准教授)

14:45~15:10

「H'OME～身近な微生物と共に生きるための古くて新しい住まい方」

藤吉 奏 (広島大学IDEC国際連携機構助教)
座長：岡村 好子 (日本学術会議連携会員，広島大学教授)

15:10~15:35

「合成生物学×ポリマー科学=GX ～カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®の挑戦～」

佐藤 俊輔 (株式会社カネカ アグリバイオ&サプリメント研究所 研究グループリーダー)
座長：竹山 春子 (早稲田大学教授)

15:35~16:00

「Bio Revolution：バイオ・デジタル・ロボティクス融合のインパクト」

近藤 昭彦 (日本学術会議連携会員，神戸大学副学長)
座長：油谷 幸代 (産総研生命工学領域研究企画室 室長)

16:00~16:30 パネルディスカッション

「これからの応用微生物学」

進行：近藤 昭彦 (日本学術会議連携会員，神戸大学副学長)
パネリスト：福田 真嗣，野村 暢彦，岡村 好子，藤吉 奏，佐藤 俊輔，竹山 春子，古園 さおり，油谷 幸代

16:30~16:35

閉会挨拶： 岡村 好子 (日本学術会議連携会員，広島大学教授)

後援：

日本農芸化学会

日本生物工学会

先端バイオ工学推進機構

東京大学微生物科学イノベーション連携研究機構

筑波大学微生物サステナビリティ研究センター

お問い合わせ：

日本学術会議農芸化学分科会シンポジウム事務局

E-mail: umanis@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

公開シンポジウム

神経科学領域の倫理的課題

令和4年

日時 13:00 - 17:00

8/27 土

ハイブリッド開催

会場 Zoom / 日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

参加費無料

事前登録制



<https://forms.gle/npah872DQRtLyNEb9>

主催 日本学術会議基礎医学委員会 神経科学分科会
同 基礎医学委員会 アディクション分科会
同 臨床医学委員会 脳とこころ分科会
同 臨床医学委員会 移植・再生医療分科会

第一部講演

司会 |

伊佐 正 京都大学医学研究科 / ヒト生物学高等研究拠点

講演者 |

定藤 規弘 自然科学研究機構生理学研究所

澤井 努 広島大学人間社会科学部

川人 光男 国際電気通信基礎技術研究所脳情報通信総合研究所

熊谷 晋一郎 東京大学先端科学技術研究センター

岡野 栄之 慶應義塾大学医学部

高橋 政代 (株) ビジョンケア

北中 淳子 慶應義塾大学文学部

第二部講演 [パネル討論]

司会 |

高橋 良輔 京都大学医学研究科

討論者 |

佐倉 統 東京大学大学院情報学環

高橋 真理子 ジャーナリスト 元朝日新聞科学コーディネーター

藤田 みさお 京都大学 iPS 細胞研究所 / ヒト生物学高等研究拠点

村井 俊哉 京都大学医学研究科

貴島 晴彦 大阪大学医学系研究科

問い合わせ 京都大学大学院医学研究科・神経生物学分野

電話 | 075-753-4353

E-mail | isaoffice@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

プログラム | <https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/323-s-0827.html>

共催 | 京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBI)

後援 | 日本脳科学関連学会連合



コロナパンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？

主催：日本学術会議

開催日時：令和4年9月2日（金）13時～16時40分

開催形式：ONLINE

参加フォーム：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0114.htm>



企画趣旨

2019年末に始まったコロナ・パンデミックは、すでに2年以上をへて、いまだ収束しない。コロナ・パンデミックによる人口動態への直接的な影響は今後の分析を待たざるを得ないが、社会内の様々な格差が顕在化することによる間接的な影響が危惧される。中でも大きなものが、そもそも不安定な立場におかれた人びとの労働状況が、コロナ・パンデミックによって、エッセンシャルワーカーへの過大な労働需要と、サービス関連産業における雇用削減の両面から、いっそう悪化するのではないかという危惧である。本フォーラムでは、「働くこと」の問題を中心に、コロナ・パンデミック以降の社会における人口縮小社会の課題解決に向けて、緊迫する国際情勢や移民問題も視野に入れつつ、多面的な検討を行う。

プログラム

13時00分～14時40分

総合司会・開催趣旨説明 遠藤薫（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会委員長、学習院大学教授）

講演：

「コロナ・パンデミックと人口問題」 金子隆一（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会副委員長、明治大学特任教授）

「ワークライフバランスと人口問題」 三成美保（日本学術会議連携会員、奈良女子大学教授）

「コロナ・パンデミックが明らかにした労働のジェンダー格差」

白波瀬佐和子（日本学術会議会員、東京大学教授）

「コロナ・パンデミックと健康格差」 近藤尚己（京都大学教授）

14時40分～14時50分 休憩

14時50分～16時10分

パネル・ディスカッション

司会 大沢真理（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

パネリスト

伊藤公雄（日本学術会議連携会員、京都産業大学客員教授）

武石恵美子（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会幹事、法政大学教授）

石原理（日本学術会議特任連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会幹事、女子栄養大学教授）

馬奈木俊介（日本学術会議会員、九州大学教授）

16時10分～16時30分 全体討論

16時30分～16時40分

閉会の挨拶 望月眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）

法獣医学の世界

2022年9月3日(土)

13時00分～16時05分 オンライン配信



参加無料
登録はこちらから

- 13:00-13:05 開会 高井 伸二 (北里大学名誉教授、日本学術会議第二部会員)
13:35-14:15 法獣医学と日本法獣医学会 田中 亜紀 (日本法獣医学会会長)
14:15-14:40 法獣医学の実際：虐待の現場から 木原 友子 (日本獣医生命科学大学 助教)
14:40-15:05 法獣医学の実際：分析の現場から 池中 良徳 (北海道大学 教授)
15:05-15:30 法学からみた法獣医学 三上 正隆 (愛知学院大学 教授)
15:30-16:00 これからの法獣医学 (討論)
16:00-16:05 閉会 石塚 真由美 (北海道大学教授、日本学術会議第二部会員)



主催 日本法獣医学会
<https://www.jvfm.net/home>

主催
共催
連絡先

日本学術会議
日本獣医生命科学大学、北海道大学獣医学研究院
scj-tox@vetmed.hokudai.ac.jp

那須地域から考える20年後の日本社会
共領域におけるイノベーション創出と地方創生

2022年9月5日(月) 14 ~ 17 時

那須ハイランドパークイVENTO館
(栃木県那須郡那須町高久乙3375)

14:00 開会の挨拶と趣旨説明

加藤 千尋 (日本学術会議若手アカデミー会員・弘前大学准教授)

14:10~15:30 第1部 話題提供

八木澤 玲玖 (株式会社那須旅代表取締役社長)

留目 真伸 (一般社団法人ナスコンバレー協議会理事・SUNDRE株式会社代表取締役)

井上 高志 (一般社団法人ナスコンバレー協議会代表理事・株式会社LIFULL代表取締役社長)

木村 草太 (日本学術会議若手アカデミー会員・東京都立大学教授)

小野 悠 (日本学術会議若手アカデミー幹事・豊橋技術科学大学准教授)

15:50~16:50 第2部 パネルディスカッション

ファシリテーター:

寺田 佐恵子 (日本学術会議若手アカデミー会員・玉川大学講師)

パネリスト:

第1部話題提供者

柿沼 緑 (日本放送協会) ほか

16:50 閉会の挨拶

岩崎 渉 (日本学術会議若手アカデミー代表 東京大学教授)

本シンポジウムでは、那須地域が抱える社会課題の解決のために展開されている「ナスコンバレー」の取組を紹介し、地方創生について専門家を招いて議論します。ぜひご参加ください。

参加費無料・予約不要

主催：日本学術会議若手アカデミー
共催：ナスコンバレー協議会
問い合わせ：公開シンポジウム事務局
tksknkch@yahoo.co.jp



NasuconValley

性差研究に基づく 科学技術・イノベーション

日本学術会議主催学術フォーラム



2022年

9月8日

木

13:00-16:30

日本学術会議講堂+オンライン

【開会の挨拶】13:00-13:05

望月真弓(日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授)

【趣旨説明】13:05-13:15

渡辺美代子(日本学術会議連携会員、科学技術振興機構シニアフェロー)

ハイブリッド
開催

【基調講演】

「Gendered Innovations」13:15-14:15

講師: Londa Shiebinger(スタンフォード大学教授)

日本語
字幕つき

【講演1】

「AIにおける公平性」14:15-14:35

講師: 上田修功(日本学術会議連携会員、

日本電信電話株式会社NTTコミュニケーション科学基礎研究所NTTフェロー)

【講演2】

「循環器系の性差と対応」14:35-14:55

講師: 下川宏明(国際医療福祉大学 副大学院長)

【講演3】

「ジェンダー統計の必要性」15:10-15:30

講師: 河野銀子(日本学術会議連携会員、山形大学教授)

【パネルディスカッション】15:30-16:20

「性差研究はイノベーションを創り出すか」

ファシリテーター: 渡辺美代子

パネリスト: 上記講師+高瀬堅吉(日本学術会議連携会員、中央大学教授)、

羽生祥子(日経X Woman 編集委員)、

コメンテーター: 伊藤公雄(日本学術会議連携会員、京都産業大学客員教授)、

能瀬さやか(日本学術会議特任連携会員、東京大学医学部附属病院特任講師)、

野尻美保子(日本学術会議第三部会員、高エネルギー加速器研究機構教授)

【閉会の挨拶】16:20-16:30

名越澄子(日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学教授)

(総合司会) 安田仁奈(日本学術会議連携会員、東京大学教授)



お問い合わせ: 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

電話: 03-3403-6295

主催: 日本学術会議

参加申込のURL

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0186.html>